

Voici, publié sur www.shobogenzo.eu le texte de *Uji*, étudié avec Yoko Orimo dans l'atelier à l'Institut d'Etudes Bouddhiques le 14 décembre 2015, 11 et 25 janvier, 8 février 2016.

Uji (Le temps qu'il y a) est traduit en français dans le tome 3 de la Traduction intégrale du *Shôbôgenzô (La Vraie Loi, Trésor de l'œil)* de Yoko Orimo (Ed. Sully). Le texte japonais ci-dessous est à **peu près** présenté en paragraphes comme dans le livre de Y. Orimo pour faciliter la recherche.

Ce texte est le n° 20 de la Nouvelle Édition

正法眼藏第二十 有時

I. 1. 古仏言《古仏言(のたま)はく》

有時高々峰頂立《有時は高々峰頂立なり》、

有時深々海底行《有時は深々海底行なり》、

有時三頭八臂《有時は三頭八臂なり》、

有時丈六八尺《有時は丈六八尺なり》、

有時拄杖扠子《有時は拄杖扠子なり》、

有時露柱燈籠《有時は露柱燈籠なり》、

有時張三李四《有時は張三李四なり》、

有時大地虚空《有時は大地虚空なり》。

2. いはゆる有時は、時すでにこれ有なり、有はみな時なり。丈六金人時なり、時なるがゆゑに時の莊嚴光明あり。いまの十二時に習学すべし。三頭八臂これ時なり。時なるがゆゑにいまの十二時に一如なるべし。十二時の長遠短促、いまだ度量せずといへども、これを十二時といふ。去來の方跡あきらかなるによりて、人これを疑著せず、疑著せざれども、しれるにあらず。衆生もとよりしらざる毎物毎事を疑著すること一定せざるがゆゑに、疑著する前程、かならずしも、いまの疑著に符合することなし。ただ疑著しばらく時なるのみなり。

3. われを排列しておきて尽界とせり、この尽界の頭々物々を、時々なりと覩見すべし。物々の相礙せざるは、時々相礙せざるがごとし。このゆゑに同時発心あり、同心発時なり。および修行成道もかくのごとし。われを排列して、われこれをみるなり。自己の時なる道理、それかくのごとし。

4. 恁麼の道理なるゆゑに、尽地に万象百草あり、一草一象おのおの尽地にあることを参学すべし。かくのごとくの往来は、修行の発足なり。到恁麼の田地のとき、すなはち一草一象なり、会象不会象なり、会草不会草なり。正当恁麼時のみなるがゆゑに、有時みな尽時なり、有草有象ともに時なり。時々の中に尽有尽界あるなり。しばらくいまの時にもれたる尽有尽界ありやなしやと観想すべし。

5. しかあるを、仏法をならはざる凡夫の時節にあらゆる見解は、有時のことばをきくにおもはく、あるときは三頭八臂となれりき、あるときは丈六丈八となれりき。たとへば、河をすぎ、山をすぎしがごとくなり。いまはその山河、たとひあるらめども、われすぎきたりて、いま玉殿朱楼に処せり、山河とわれと、天と地なりとおもふ。

6. しかあれども、道理この一条のみにあらず。いはゆる山をのぼり、河をわたしり時に、われありき、われに時あるべし。われすでにあり、時さるべからず。時もし去来の相にあらずは、上山の時は有時の而今なり。時もし去来の相を保任せば、われに有時の而今ある、これ有時なり。かの上山渡河の時、この玉殿朱楼の時を吞却せざらんや、吐却せざらんや。

7. 三頭八臂はきのふの時なり、丈六八尺はけふの時なり。しかあれども、その昨今の道理、ただこれ山のなかに直入して、千峰万峰をみわたす時節なり、すぎぬるにあらず、三頭八臂もすなわちわが有時にて一経す、彼方にあるにいたれども而今なり。丈六八尺もすなわちわが有時にて一経す、彼処にあるにいたれども而今なり。

8. しかあれば、松も時なり、竹も時なり。時は飛去するとのみ解会すべからず、飛去は時の能とのみは学すべからず。時もし飛去に一任せば、間隙ありぬべし。有時の道を経聞せざるは、すぎぬるとのみ学するによりてなり。要をとりていはく、尽界にあらゆる尽有は、つらなりながら時々なり。有時なるによりて吾有時なり。

*

II. 1. 有時に経歴の功德あり。いはゆる今日より明日へ経歴す、今日より昨日に経歴す、昨日より今日へ経歴す。

2. 今日より今日に経歴す、明日より明日に経歴す。経歴はそれ時の功德なるがゆゑに。古今の時、かさなれるにあらず、ならびつもれるにあらざれども、青原も時なり、黄檗も時なり。江西も石頭も時なり。自他すでに時なるがゆゑに、修証は諸時なり。入泥入水、おなじく時なり。いまの凡夫の見、および見の因縁、これ凡夫のみるところなりといへども、凡夫の法にあらず、法しばらく凡夫を因縁せるのみなり。この時、この有は法にあらずと学するがゆゑに、丈六金身はわれにあらずと認ずるなり。われを丈六金身にあらずとのがれんとする、またすなはち有時の片々なり、未証抛者の看々なり。

3. いま世界に排列せるむま・ひつじあらしむるも、住法位の恁麼なる昇降上下なり。ねずみも時なり、とらも時なり、生も時なり、仏も時なり。この時、三頭八臂にて尽界を証し、丈六金身にて尽界を証す。それ尽界をもて尽界を界尽するを、究尽するとはいふなり。丈六金身をもて丈六金身するを、発心・修行・菩提・涅槃と現成する、すなはち有なり、時なり。

4. 尽時を尽有と究尽するのみ。さらに剰法なし、剰法これ剰法なるがゆゑに。たとひ半究尽の有時も、半有時の究尽なり。たとひ蹉過すとみゆる形段も有なり。さらにかれにまかすれば、蹉過の現成する前後ながら、有時の住位なり。住法位の活鱗鱗地なる、これ有時なり。無と動著すべからず、有と強為すべからず。

5. 時は一向にすぐるとのみ計功して、未到と解会せず。解会は時なりといへども、他にひかる縁なし。去来と認じて、住位の有時と見徹せる皮袋なし。いはんや透関の時あんや。たとひ住位を認ずとも、たれか既得恁麼の保任を道得せん。たとひ恁麼と道得せることひさしきを、いまだ面目現前を摸索せざるなし。凡夫の有時なるに一任すれば、菩提・涅槃もわづかに去来の相のみなる有時なり。

6. おほよそ、羅籠とどまらず有時現成なり。いま右界に現成し、左方に現成する天王天衆、いまもわが尽力する有時なり。その余外にある水陸の衆有時、これわがいま尽力して現成するなり。冥陽に有時なる諸類諸頭、みなわが尽力現成なり、尽力経歴なり。わがいま尽力経歴にあらざれば、一法一物も現成することなし、経歴することなしと参学すべし。

7. 経歴といふは、風雨の東西するがごとく学しきたるべからず。尽界は不動転なるにあらず、不進退なるにあらず、経歴なり。経歴は、たとへば春のごとし。春に許多般の様子あり、これを経歴といふ。外物なきに経歴すると参学すべし。たとへば、春の経歴はかならず春を経歴するなり。経歴は春にあらざれども、春の経歴なるがゆゑに、経歴いま春の時に成道せり。審細に参来参去すべし。経歴をいふに、境は外頭にして、能経歴の法は、東に向きて百千世界をゆきすぎて、百千万劫をふるとおもふは、仏道の参学、これのみを専一にせざるなり。

*

III. 1. 薬山弘道大師、ちなみに無際大師の指示によりて、江西大寂禅師に参問す。三乗十二分教、某甲ほぼその宗旨をあきらむ。

如何是祖師西来意《如何ならんか是れ祖師西来意》。

かくのごとくとふに、大寂禅師いはく、

有時教伊揚眉舜目《有る時は伊をして眉を揚げ目を瞬かしむ》、

有時不教伊揚眉舜目《有る時は伊をして眉を揚げ目を瞬かしめず》、

有時教伊揚眉舜目者是《有る時は伊をして眉を揚げ目を瞬かしむる者は是なり》、

有時教伊揚眉舜目者不是《有る時は伊をして眉を揚げ目を瞬かしむる者不是なり》。

薬山ききて大悟し、大寂にまうす。某甲かつて石頭にありし、蚊子の鉄牛にのぼれるがごとし。

2. 大寂の道取するところ、余者とおなじからず。眉目は山海なるべし、山海は眉目なるゆゑに。その教伊揚は山にみるべし、その教伊舜は海を宗すべし。是は伊に慣習せり、伊は教に誘引せらる。不是は不教伊にあらず、不教伊は不是にあらず、これらともに有時なり。

3. 山も時なり、海も時なり。時にあらざれば山海あるべからず、山海の而今に時あらずとすべからず。時もし壊すれば山海も壊す、時もし不壊なれば山海も不壊なり。この道理に明星出現す、如来出現す、眼睛出現す、拈華出現す。これ時なり。時にあらざれば不恁麼なり。

*

IV. 1. 葉県の帰省禅師は臨済の法孫なり、首山の嫡嗣なり。あるとき大衆にしめしていはく、

有時意到句不到《有る時は意到りて句到らず》、

有時句到意不到《有る時は句到りて意到らず》、

有時意句両俱到《有る時は意句両俱(とも)に到る》、

有時意句俱不到《有る時は意句俱に到らず》。

2. 意、句ともに有時なり、到、不到ともに有時なり。到時未了なりといへども不到時来なり。意は驢なり、句は馬なり。馬を句とし、驢を意とせり。到はそれ来にあらず、不到これ未にあらず。有時かくのごとくなり。到は到に罣礙せられて、不到に罣礙せられず。不到は不到に罣礙せられて、到に罣礙せられず。意は意をさへ、意をみる。句は句をさへ、句をみる。礙は礙をさへ、礙をみる。礙は礙を礙するなり、これ時なり。礙は他法に使得せらるるといへども、他法を礙する礙いまだあらざるなり。我逢人なり、人逢人なり、我逢我なり、出逢出なり。これらもし時をえざるには、恁麼ならざるなり。

3. 又、意は現成公案の時なり、句は向上関楨の時なり。到は脱体の時なり、不到は即此離此の時なり。かくのごとく辨肯すべし、有時すべし。

4. 向來の尊宿ともに恁麼いふとも、さらに道取すべきところなからんや。いふべし、

意句半到也有時《意句は半到も也有時》、

意句半不到也有時《意句は半不到も也有時》。

かくのごとくの参究あるべきなり。

教伊揚眉舜目也半有時《伊をして眉を揚げ目を瞬かせるも也半有時》、

教伊揚眉舜目也錯有時《伊をして眉を揚げ目を瞬かせるも也錯有時》、

不教伊揚眉舜目也錯々有時《伊をして眉を揚げ目を瞬かしめざるも也錯々有時》。

恁麼のごとく参来参去、参到不到する、有時の時なり。

正法眼蔵有時第二十

仁治元年庚子開冬日書于興聖宝林寺

寛元癸卯夏安居書写 懷特